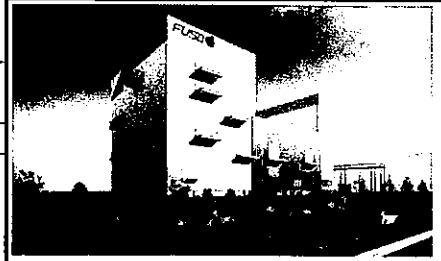


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v1.0)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	扶桑化学工業㈱ 京都第二工場 F	階数	地上7F
建設地	京都府福知山市長田野町2丁目8番	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	8人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 / 予定	評価の実施日	2017年7月20日
敷地面積	2,340 m <sup>2</sup>	作成者	丸尾浩文
建築面積	1,184 m <sup>2</sup>	確認日	2017年7月27日
延床面積	3,932 m <sup>2</sup>	確認者	丸尾浩文



**2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)**

BEE = 0.6 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

**2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)**

★☆☆☆☆

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★☆☆☆☆

標準計算

①参照値: 100%  
②建築物の取組み: 90%  
③上記+②以外の: 88%  
④上記+: 88%

92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

**2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)**

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 4  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 2  
LR2 資源・マテリアル: 1  
LR3 敷地外環境: 1

**2-4 中項目の評価 (バーチャート)**

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.3

**Q1 室内環境** Q1のスコア = 2.4

**Q2 サービス性能** Q2のスコア = 2.2

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.0

**LR1 エネルギー** LR1のスコア = 3.2

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア = 2.6

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア = 3.1

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
<p>今計画は、工業専用地域における工場の計画である。周辺の工場施設等に馴染む外装材を採用し圧迫感の無いクリーンな印象を与える配色によって景観への配慮を行っている。また高効率機器を導入することによりエネルギー消費量削減に配慮している。</p>		特に無し。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
化学汚染物質に関し、規制対象外もしくは告示対象外の材料を全面的に使用している。	維持管理に配慮し、屋外の金属部分はすべて亜鉛めっき処理等の防錆対策を行っている。	周辺のまちなみ(工場地帯)調和への配慮を行い、敷地境界に積極的な緑地の計画を行っている。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
LED照明等を採用し、設備システムの高効率化を実施している。	躯体と仕上材の分離を容易にしている。	LCCO <sub>2</sub> 削減に配慮。燃焼機器を設置していない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される